

令和3年度 第4回 会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 要旨

日時：令和4年3月17日（木）10：00～12：00

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室2

1 開会（司会：観光商工部商工課 田沼）

2 協議

- ・会津若松商工会議所吉田課長が座長となり進行

【令和4年度の勉強会・交流会について】

■前回会議で頂いた意見をもとに、事務局にて案を作成（別紙）。改めてコアメンバーより意見を頂いた。

- ・どういった事業者をターゲットにするかが大事。
- ・セミナーに自発的に参加する人は、やる気があり、ある程度経営に余裕がある場合が多いと思う。セミナーにも参加しない（できない）人たちに、セミナーの効果を広げていくにはどうすればよいか・・・
- ・事業者の人は漠然と悩みを持っている方も多い。まず足がかりとして、こういったセミナーを聞いてみるのは良いと思う。
- ・1回のみセミナーだと、やはり皆、一度聞いて終わりになってしまう。コアメンバーの団体を通じて、事前に事業者からアンケートをとってみてはどうか。
- ・聞いて終わりではなく、その後に支援機関につなぐ仕掛けや時間もあった方が良いのではないか。
- ・事業者の啓発を促すだけでなく、一歩踏み込む形にしたい。
- ・未来会議として、事業者に対してこれが良いのでは！というものを発信していくことも大事なのではないか。
- ・事業者自らが参加できるセミナーが良いのでは・・・
- ・様々な課題にアプローチできるのが未来会議の魅力だと思う。
- ・せっかく未来会議で主催するので、（都会の）若者と、市内事業者（事業承継を検討している事業者）のマッチングを行ってはどうか。
- ➡事業承継に関する支援機関の方から、事業承継したい側（ゆずりたい側）は相談することに消極的という話を多く聞く。実際にマッチングの場を設定する前に、『恥ずかしいことではない』『普通のことだ』という意識を持ってもらうことが課題に感じる。

（支援機関より）

- ・事業承継に関する相談は定期的に行っているが、これまでに関わったことの無い人相手が良いという方も居る。
- ・事業者は負債を抱えていると特に事業を引き継ぐことを申し訳ないと思う方が多いようだ。
- ・譲る側は負のイメージだが、事業承継に関する相談ができることを発信し続けたことで、最近自分から相談してくれる人も増えてきた。
- ➡これまでの未来会議の中で情報交換した中で、やはり事業者が抱える課題は多岐にわたる。広くアプローチしようと思うとやはり『啓発』となってしまうがち。未来会議として、良いものを『取り組んでみては？』『使ってみては？』と進めることが、他の団体ではあまり無い勉強会になるのでは？

- ・(3) に挙げた【デジタルと伝統産業のコラボ】については、まずはデジタル技術を体験し、その活用の可能性を知ってもらうセミナーだが、それを足がかりとして、興味のある事業者には、自社で使えるDXやデジタル人材の育成に関する講座へ参加してもらうことを想定している。
- ☞ 良いものを発信し、啓発に留まらない、一步踏み込んだアプローチも可能な仕掛けを行う方向で事務局調整とし、次年度詳細内容を詰めることとする。

【葵ゼミとの連携について】

■2021年度 2年生の探求レポート、未来会議と連携した感想について事務局より紹介。

(コアメンバーより)

- ・自分も同学年の生徒とプロジェクトを進めてきた。
- ・学習指導要領の改訂により、高校において探求学習活動を行うことが定められているが、この活動をとおして生徒の意識がどのように変わるかアンケートを実施した。
- ・葵高校はなかでも2学年を通して、また地元企業との連携により探求に取り組むなど先駆的な活動を行なっている。
- ・特にキャリア教育に注目してみると・・・
 - 1 学年の始め：地元での就職を希望する生徒の民間企業への就職意欲は低い（公務員・医療福祉系などを考えている生徒が多い）。一方で民間企業を希望する生徒は都会での就職を希望している。
 - 1 学年の終わり：地元での就職を希望する生徒の民間企業への就職意欲はますます低くなる（活動により地域の現状が見えてきたのか・・・？）
 - 2 学年の12月（最終探求レポート時）：地元就職において民間企業への意識が高くなった。それまで生徒の発言にはなかった企業の名前が挙がるなど、興味を持っていた。
- ・高校2年間のみの活動ではなく、3年生の時も地域となんらかのつながりを持つことができるようになればより良いと感じる。

【情報共有】

(地域の景況感について)

- ・まん延防止等重点措置が解除されたとはいえ、市内では引き続き感染者が多く、飲食店などではお客様が戻らない状況があるようだ。
- ・飲食店の一部は、感染状況を考慮し、お店を休業しているところもある。
- ・飲食店からは、年度末・年度始の歓送迎会がどうなるか不安との声を聞く。
- ・報道発表によると、今回は飲食店関連のクラスターは聞いていない。感染対策をしっかりと行っている飲食店も増えてきているので、利用者側もマナーを守る点が大事になってくると思う。
- ・度重なる時短要請などで、皆が慣れてきてしまったように感じる。
- ・まん延防止等重点措置が解除になり、大規模なイベントも開催されるようになってきた。
- ・一方で、子供たちがメインのイベントについては、参加したいという需要はあるが、子供たちの間での感染者が減らない状況があり、慎重になっている傾向がある。
- ・昨年までの感染拡大の影響よりも、影響は小さいように感じる。
- ・燃料費の高騰や、それに伴う部材（原材料）の高騰で、事業者に大きな影響が出ている。今後、ロシアとウクライナの戦況によっては、さらに影響が大きくなる可能性がある。

(支援策について)

- ・国の事業復活支援金については、これまでの一時支援金や月次支援金と比較すると、該当しやすいようだ。また、交付決定から振込までの日数も早く、事業者の支援になっていると感じる。
- ・融資制度については、県により創設された伴走支援型保証制度付きの特別資金なども出てきた。
- ・手元資金の状況については、二極化（潤沢にある事業者と不足している事業者）が進んでいるようだ。
- ・コロナの影響が長期にわたり、疲弊している事業者もいるようで、事業終了へ向かう事業者も出てくると思う。コロナを踏まえた事業の構築が今後重要となる。

(コアメンバーの活動について)

- ・組織のイベントは、組織内の会食等も含め全て中止となった。
- ・コロナの陽性者または濃厚接触者が出た場合には、業務を継続できない可能性もあることから、会合等については慎重な判断にならざるを得ない。
- ・まん延防止等重点措置が解除されて以降は対面での会議なども少しずつ開催している。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた就業者、失業者、またUターン希望者に対して、デジタル分野の応用基礎的な能力を育成し、キャリアアップにつなげ、地元企業のDX強化を推進する事業を行う予定であり、協議中。
- ・あいづ商工会では、広田駅前のイルミネーション点灯を青年部事業として実施。コロナの影響がある中でも、中止にせず実施できたことが良かった。
- ・特定地域づくり事業協同組合制度を活用した組合については、労働者派遣事業を実施しようとする組合の設立相談はあるが、スタンプ（商店会などが共同でシールやスタンプを作成する）組合が解散するケースが多い。以前とは商店会の在り方も変化していると感じる。
- ・同友会では、会津エリアの進路指導の先生とハローワークとの懇談が行われた。高校生にどのような企業が求められているか、企業側にどのような人材が望まれているかなどについてお互いに情報共有を行った。
- ・情報共有をもとに、自社を振り返ってみると、保護者からも高校生からも選ばれにくいように感じたため、今後の採用活動に工夫が必要だと思った。
- ・市では、今回のまん延防止等重点措置により、中止としたイベントもあった。来年度の取組としては、経済活性化のためプレミアム商品券の実施などを予定している。また、鶴ヶ城周辺のアクティビティの充実に取り組む予定である。

【令和4年度の勉強会(セミナーについて)】

(メンバーからのセミナー案)

- ・事業の存続や後継者問題について：経営者の企業経営の悩みなど、また、支援している団体からの話。
⇒成功事例が聞ければなお良い。
 - ・(葵高校とせっかく連携しているので) 高校性が聞きたい事業者のセミナーを開催し、高校生との交流を深める。事業の成功事例など。
 - ・女性経営者、企業の中で活躍する女性の講演。
 - ・中小企業振興条例に成功事例。
 - ・会津の地域企業間でのコラボを深めていくセミナー。
 - ・デジタルを使った情報発信に関する勉強会：地域に根付く物の良さをデジタルで発信する事例。
- まずは解決すべき課題の設定が大事だと思う。

➡◎大きな方向性として、これまでの勉強会のテーマ『コラボ・連携』を深めていくか、新たな課題設定に基づき勉強会を開催するか。

①コラボについて深めていく

- ・1つの業界でできることには限りがある。他業種との連携は重要。
- ・会議の中でできた良い事例について深めていきたい。
- ・業種、業界、団体にしばられずに連携を深めたい。

②新たなテーマでの勉強会

- ・コラボについては他のところでたくさんやっている。新しい方向性で進むことが大事だと思う。

↓(勉強会案)

(1)事業承継や経営支援にスポットをあてた講演会

① 講師例:株式会社事業パートナー 代表取締役 松本氏

- ・東京都中小企業振興公社主催『経営者ってこんなに楽しい！日本で20人に1人の経営者のタスキを承継する大切さ』で講師を務める。
- ・かつて40年にわたり飲食業を中心に会社経営。バブル崩壊時に25億円の負債を抱え、その後3年半でその負債を解消する。その経験を活かし、2003年より事業再生請負人として全国を行脚している。

② 講師例:一般財団法人ベンチャー型事業承継 代表 山野千枝氏

- ・関西圏の大学において、親が事業を営む学生を中心に『ガチンコ後継者ゼミ』を主宰し、家業で新たなビジネスに挑戦する『ベンチャー型事業承継』を提唱。
- ・中小企業の後継予定者を対象とした新規事業開発支援団体『一般財団法人ベンチャー型事業承継』を設立。
- ・野心系アトツギによる熱量を維持する環境づくりについて、講演などを行っている。
- ・2020年日経ウーマンオブザイヤーを受賞。

(2)令和3年度のセミナーを深めていく

講師例:BEAMSJAPAN ふくしまものまっふ担当バイヤー

- ・BEAMSJAPANでは、福島県にとどまらず、様々な地域の『良いもの』を見つけ、また、その地域の良い部分とコラボした商品を作っている。取組の理由や、BEAMSから見た福島県の魅力、発見した良いところなどを聞く。

(3) デジタルと伝統産業のコラボに学ぶセミナー

講師例: VR で授業『南部鉄器の製造工程を学ぶ』意味的価値創造演習より

タヤマスタジオ 田山社長

宮城大学 高山先生(マーケティング)、安藤裕先生(感性工学・ユーザーリサーチ)

- ・VR を活用した疑似体験により製造工程を学ぶことで、伝統工芸品の価値を実感として感じてもらう授業を実施している方に話を聞く。今後の活用方法として、新入社員への事前研修によるミスマッチの解消、海外への販路拡大での利用が検討されている。

※VR 体験が可能であれば、高校生も聞いてもらえる内容にし、参加可能とする。

(4) 葵高校生(葵ゼミ)との事業者交流会

講師例: 未来会議コアメンバーを中心とした市内事業者

- ・これまでに葵ゼミと連携してきた拡大版として、市内事業者と葵高校生との意見交換会を開催する。
- ・葵高校生をグループ分けし、事業者に聞いてみたいことなどを意見交換し、交流を図る。

令和3年度
会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 コアメンバー及び出席者名簿

令和4年3月現在

| 所属・企業名 | 役職 | 氏名（敬称略） | 備考 | 第4回 出欠 |
|--------------------|---------|---------|----------------------|-----------|
| 宮城大学 事業構想学群 | 准教授・博士 | 青木 孝弘 | | 出 |
| (有)カナダ工業製作所 | 専務取締役 | 金田 卓也 | 会津若松商工会議所 推薦 | 出 |
| (株)安西商会 | | 安西 秀幸 | | 欠 |
| (株)アクトイン | 取締役 | 松浦 久美 | 県中小企業家同友会 会津支部 推薦 | 出 |
| TAKLAM | 代表 | 遠藤 和輝 | 公益財団法人 会津青年会議所 推薦 | 出 |
| 会津若松商工会議所 | 企業振興課長 | 吉田 浩 | | 出 |
| あいづ商工会 | 事務局長 | 白川 浩二 | | 出 |
| 福島県中小企業団体中央会 会津事務所 | 所長 | 堀 和弘 | | 出 |
| 会津信用金庫 | 本店営業部長 | 渡部 勝敏 | | 出 |
| 会津商工信用組合 | 融資部・副部長 | 清野 敦 | | 出 |
| 会津若松市観光商工部商工課 | 課長 | 長谷川 陽一 | | 出 |